

新賃金妥結!

3月28日、13時30分

本部は、3月28日13時30分、2011年賃金引き上げ、夏季手当、諸手当等改善交渉について交渉を集約し妥結を通告しました。2月15日の要求申し入れ以降、東日本大震災を挟み、再申し入れも含め7回の団体交渉を開催し、会社に社員の声をぶつけ厳しい議論を積み上げてきました。しかし回答は「定期昇給のみ実施＝ベアゼロ、夏季手当2.9ヶ月」のみでした。また現等級経過年数に応じた定昇額の減額についても、何ら改善する姿勢を見せませんでした。

2011年賃金引き上げ、夏季手当、諸手当等改善交渉の集約にあたって

3月28日13時30分、本部は、2011年賃金引き上げ、夏季手当、諸手当等改善交渉について、JR東海労働組合員はもとより、他労組組合員の支援のもとたたくてきましたが、現状以上の前進を勝ち取ることは困難と判断し、今次交渉を集約し妥結を通告しました。

JR東海の今年度の業績は、社員が努力した結果として、昨年を大きく上回り、年度末決算予想を上方修正するにまで至り、それは単体で会社発足以来5番目の収益となりました。私たちは、率直にその努力や、さらなる社員の「やる気」に応えるよう訴えました。しかし会社は景気の動向、業績、世間相場、世間水準、他企業の動向等を理由に並べ、端からベアや「昇給制度」の改訂、諸手当の改善への姿勢を示しませんでした。

トヨタは今年の平均定期昇給額が7300円でした。これに対して、JR東海は最高でも4800円(乗数4の場合)です。そしてさらに年を追う毎に減額され、最後は400円(同)になります。会社は「試験に合格すれば昇給額も上がる」と簡単に言い放ちました。しかし、試験を受ければ全員が合格するわけではありません。社員の約半数は4800円すらの定期昇給ともならないのです。可否を判断するのは会社です。まさに「命令と服従」のための制度でしかありません。これで社員にやる気は生まれるのでしょうか。

ベア3700円は生活の維持、格差是正のための最低限の要求でした。また「昇給制度」の改訂も社員のやる気の喪失を防ぐための最低限の要求でした。そしてそれは、JR東海の未来にわたる繁栄を支える社員に対する、会社としての最低の応えだったのです。しかし会社は社員よりも世間体を守ったのです。夏季手当においても、会社は当初から業績には運動させない予防線を張り、抑え込みをはかりました。業績が落ち込んだ昨年は、それに合わせて手当を抑え込みました。しかし今年は業績が上がっているのです。これでは社員がいくら努力して業績を上げても、社員には返ってきません。

役員の異常な高額報酬と比べ、社員は搾り取られる一方です。このような現状でいいのでしょうか。JR東海ユニオンは、今次回答を「組合員の努力と成果に最大限報いる回答である」と諸手をあげて絶賛しています。そのようなJR東海ユニオンに未来を委ねて、将来安心なのでしょうか。

3月11日、東日本大震災が発生しました。想像を絶する被災地の状況を目の当たりにし、団交の日程も変更を余儀なくされました。団交の中で被災地の救援や復興に向けての労働組合としての決意や、会社への要請を行ってきました。しかし、会社はその議論すら拒否し、そして震災をも理由に持ち出し今回の回答を押し通しました。

災害時、社員は安全確保のために全力で会社に協力しました。その労苦に応え、また、震災による社会の閉塞感を打ち破り、さらに被災地の復興に向けた支援や協力をJR東海社員が真剣に取り組むためにも、満額回答は何よりも力のことを私たちは主張しました。しかし会社は、冷酷にも拒否の姿勢を貫きました。このような会社の姿勢に、社員を大切にす気持ちは見て取れません。

私たちは、このような会社の姿勢を許すことなく、今後も社員を代表して皆さんの声を会社にぶつけ現状を変えるために闘います。また、被災地の復興に向けて全力を尽くします。今回の交渉において、皆さんからいただいたご支援に対して、あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

2011年3月28日

JR東海労働組合中央本部

ところがJR東海ユニオンはこの回答を「組合員の努力と成果に最大限報いる回答」だと評価し、回答日当日に妥結したのです。「純ベア1,000円、夏季手当3.0ヶ月、制度政策要求実現に向け、強い姿勢で交渉に臨む」としていたのにもかかわらず、です。

私たちの要求からすれば、回答内容は大いに不満です。しかしJR東海ユニオンが早々妥結している状況等から、これ以上の前進は困難と判断し、妥結を決定しました。今次交渉における皆様からの支援・激励にあらためて感謝申し上げます。今後も職場の声を会社にぶつけ、現状を変えるために闘います。